



手をつなぐ とやま

第166号

富山県手をつなぐ育成会
富山市安住町5-21
富山県総合福祉会館内
TEL 076-441-7161
FAX 076-441-7255
mail toikusei@minos.ocn.ne.jp
HP <http://toyamaikusei.jp/>

発行責任者
平野 幹 夫

みなさんの会報です

よく読みましょう

「第50回手をつなぐ育成会 東海北陸大会」を開催しました！

H29年10月21日・22日（富山県民会館、他）

県内、東海北陸地区から、延べ1,700名の参加者が集いました。

参加者、スタッフ、関係者の皆様 ありがとうございました！

— ひとりひとりが考える 実践活動 —



本人大会（第1分科会・話し合い）の参加者集合！

第50回手をつなぐ育成会 東海北陸大会 (創立60周年記念 富山大会併催)

「障害のある人もない人も 互いに尊重しあい、暮らしやすい地域共生社会の実現」をスローガンに、10月21日・22日に富山県民会館等で開催しました。

初日は分科会・本人大会・懇親会を、2日目には式典とシンポジウムを行い、一人ひとりがかけがえのない存在という価値観を再確認しあうと共に、地域共生社会の実現に向けた育成会活動の発展や、福祉施策の課題などについて協議しました。



森富山市長



稗苗県議会議長



石井知事

式典では、石井知事、稗苗県議会議長より、ご祝辞を、森富山市長より歓迎のお言葉をいただき、参加者一同、大変励みとなりました。



本人決議文朗読
東海北陸大会では、初の試み。本人たちが登壇し、自分たちの願いを堂々と読み上げました。



大会決議朗読
青木誠之助さん(富山市)



富山国際大学の学生
の皆さんには、2日間を通して、ご協力いただきました。

「みんなのえがお」と題して、本人さんの笑顔の写真をロビーに展示しました。



新年のごあいさつ



理事長 四方 正 治



— あなたです！ 差別するもの されるもの —

新年明けましておめでとうございませう。皆様方には、心新たな気持ちで新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素から、育成会活動に力強いご支援、ご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

さて、昨年は、富山県育成会の創立60周年の節目を迎え、第50回東海北陸手をつなぐ育成会大会を富山市において、県内参加者700名に県外から500名余の方々をお迎えして、成功裏に終えました。

本人大会や分科会を通して、大会テーマの「障害のある人もない人も、互いに人として尊重しあい、暮らしやすい地域共生社会の実現」を願い、交流や活発な意見交

換が行われました。式典では、東海北陸大会で初めて、本人たちが決議文を宣言しました。

締め括りの全体シンポジウムでは、総合支援法の見直しを中心に、育成会にとつての課題も指摘していただき、参加者の共通理解を深めることができました。

また、全国手をつなぐ育成会連合会として4回目となる全国大会が、北海道札幌市で開催されました。

「今こそ創ろう！自信と誇りをもって生きる社会を共に」を大会テーマに、特別分科会として「キャラバン隊全国サミット」を開催するなど、共生社会づくりへの決意を強く示す大会となりました。障害者総合支援法の見直しについては、就労定着や高齢障害者支

援の拡充などの新サービスが、平成30年4月から施行されます。

とりわけ、障害福祉と介護保険の両方のサービスが同一の事業所で受けやすくなる、「共生型サービス」の創設により、65歳問題を円滑にクリアし、共生社会づくりが前進するよう、注視していく必要があります。

一方、障害者の権利擁護については、国連の障害者権利条約の批准や障害者差別解消法の施行がなされ、本県をはじめ多くの地方公共団体において、障害者差別を解消する条例が制定されてきております。

しかしながら、法律や条例ができたからといって、差別や偏見がすぐ無くなるものではありません。相模原市の事件は言うに及ばず、昨年の栃木県の事件など、虐待は、いつ、どこで起こるかわかりません。

障害のある人もない人も、一人一人がかげがえのない存在という価値観が、まだまだ浸透していません。今、政府においては、オリンピッ

ク・パラリンピックを好機と捉えて、「ユニバーサルデザイン2020行動計画」に基づいて、心のバリアフリーの取り組みを国民に幅広く呼びかけております。障害のある人もない人も、互いに納得できるような合理的配慮の提供や、生活環境の整備がなされるよう、私たちは、それぞれの地域で、粘り強く働きかけていくことが大切です。

どうか会員の皆様には、ともに手をつなぐという育成会の原点を忘れることなく、各障害者団体とも連携協力しながら、安心して暮らせる地域づくりを進めていただきたいと思っております。

「あんしんサポートノート」づくりについては、引き続き、当会としての最重点事業と考え、小グループでの書き方学習会などを通して、悩み事相談や家族への支援、そして、会員拡大につなげていただくようお願いいたします。

結びに、関係各位の変わらぬご理解と一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

いやなことは？

そうじをするのが面倒くさい。
 母の愚痴をきかされる。
 兄の嫁さんに、気を使います。
 自由に使えるお金が少ない。
 休みなのに、畑や草刈り仕事がある。
グループホームで、うるさい人がいる。
 好きなことができない。

たのしいことは？

自分の部屋でテレビをみること。
 家族でお出かけして、外食すること。
 仕事に行くこと。料理や育児をしている時。
好きな時に外出できる。夜ふかし。
 パソコンやゲームをすること。
 友達と会って、話をしているとき。

暮らしについて

将来のことで、心配なことは？

健康問題。持病があること。年をとること。
ずっと、家族と一緒にいられるか心配。
 仕事を続けていけるのか。消費税。
金銭管理や、生活のことを、
自分で全部できるか心配です。
 障害基礎年金が少ないので、
 家賃補助がほしい。
自分はグループホームに入れるのか。

将来、どこでだれと暮らしたい？

仲間と、地域のグループホーム。
 アパートで、ヘルパーさんと一緒に。
グループホームだけど、家に帰りたい。
結婚して、家族で暮らしたい。
 おとなしい友達と、グループホームで。
1人が楽。ひとり暮らしのままで良い。
 彼氏と一緒に、高級な家。
今のまま、家で家族と一緒に。

みんなで 守ろう 子どもと 老人

第2分科会・レクリエーション

「暮らし」について、意外だったのは、一人で過ごす時間を大切にしている人が多かったことです。また、将来への不安を口にする人も多くありました。

仕事や暮らしに対する本音、将来の夢、不安など、本人同士、話が弾み、大いに刺激も受けあったようでした。

本人たちの話を聞いてみると、こんなことを考えているんだ、思っているのかと、新鮮な感想や驚きがあります。終了後、協力職員さんからは、「いい経験をしました、今後も本人たちが、自分の気持ちを表現できるように、「思い」をよく聴いていきたいです」と、感想をいただきました。

幼児、学齢期、20代から70代(！)と、幅広い年齢の、たくさんの方が参加したレクリエーションは、いづみミュージックスクールの、太田泉先生に指導していただきました。

あいにく、会場の冷房が切れて



約300名と大変多くの参加となった本人大会でしたが、県内各施設・地域事業所の職員、富山ハイロットクラブ、支援者、ボランティア、育成会員によるスタッフなど、たくさんの方々のご協力により、みんなの笑顔と個性が大きく咲いた分科会となりました。皆さん、どうもありがとうございました。

《本人大会》第1分科会・第2分科会

～みんなの笑顔を咲かせよう みんなの個性を咲かせよう～

第1分科会 話し合い「仕事・暮らし・将来について」
 進行 富山県手をつなぐ育成会 本人活動部会 明るい立山の会
 第2分科会 レクリエーション「みんなで おどろう たのしもう」
 指導 株式会社NSP いづみミュージックスクール 太田 泉 氏



グループによる話し合いと全体発表という形式で、各グループには、地域事業所の職員さんに入ってもらい、まずは、「仕事」の話からスタートです。

話し出すと、その場は自慢大会のような雰囲気になりました。周りの人に感謝されたり、頼りにされたりすることが、とても嬉しく、働きがいがある。また、嫌なこともあるけれど、ずっと働きたい、定年後の仕事が心配、という声がある一方、定年後には家で、親の介護をしたいという意見もありました。

第1分科会・話し合い

— 運転は 心の広さの バロメーター —

つらいこと、いやなこと

仕事のやりかたが、わからないとき。
 失敗して怒られた時。
 職場が暑くて汗をかく。冬の水がつめたい。
 ストレスがたまってイライラする。
 残業が多い。忙しすぎる。
60歳の私に、重い荷物を持たせること！
 うるさい人がいる。服装に決まりがある。
相談する人がいなくて、悩んだとき。

仕事について

楽しいこと、うれしいこと

町の人に頼りにされている。
「期待の星」と呼ばれている。
 仲間や、上司、お客さんとの会話。
 飲み会がある(お酒が大好きです)！
「ありがとう」と感謝されること。
 自分のペースで仕事ができる。
 給料がもらえる。給料があがった。
自分の作った製品が、
地域で役にたっていること。

今の仕事、続けたい？

はい！ずっと続けたい。(意見多数)
 一般の会社に就職したい。
 パソコンを使った仕事をしてみたい。
65歳になったら、母の面倒をみたい。
介護職員として、現場で働きたいです。
グループホームの世話人になりたい。
 人と関わりのない仕事につきたい。
 ずっと続けたいので、応援してください！
死ぬまで現役！！

給料、工賃には満足？

もっと増やしてほしいです。
 まあまあ、ほどほどですね。
100万円、貯金をしました！
 貯金をしたいので計画的に使っている。
すごく満足しています。
 賞与が下がって残念。びみょう。
 あまり使わないようにしています。

第4分科会「暮らす」～地域での多様な暮らし方～

基調講演・コーディネーター

福岡 寿氏 (日本相談支援専門員協会 顧問)

話題提言・シンポジスト

若林清彦氏 (富山県)、市川知律氏 (三重県)、渡邊理恵子氏 (名古屋市)



基調講演では福岡寿さんより、長野県での地域生活移行への取り組み等のご経験にもとづき、お話ししていただきました。

障害のある人を、私たちは「これがいいに決まっている」という思い込みで、段取りされた暮らしの中にはめまもるとしますが、福岡さんは、徹底的に本人の思いを「聴く」こと、本人中心の支援であることが大切だと強調されました。具体的には、行ってみる、見てみる、いろんな体験を重ね、本人の心が動くのを待ち、その瞬間を見逃さないこと。本人の胸にストンと落ちるような暮らしを一緒に見つけること。本人がいいなと思える手がかりを用意するといった、「ゆるやかな自己決定」への支援を確立していくことをあげられました。また、本人の思いを計画化する、相談支援専門員の存在と力量も、



話題提言 若林

大変重要な役割とのことでした。最後に、地域の中の事業所同士の関係が良く、利用者の困り込みをせずに、体験や利用することが許されるのが理想で、いつかそうなった時には、相談支援専門員に協力してもらいながら、是非、いろんな体験を試してもらいたいと結ばれました。

話題提言では、若林清彦さんが、(社福)にいかわ苑の「富山型共生グループホーム」の取り組みから、高齢者と障害者がひとつ屋根の下で暮らす様子や、障害者が介護支援資格を取得し、特別養護老人ホームへの就労に結び付いた事例を発表され、高齢者と障害者、お互いの存在が生きがいとなり、環境が人を変えていく好事例をお話しされました。市川知律さんは、入所からグループホーム(以下GH)へ移行した

— おたがいに 気づかう心で 明るい社会 —

方の後見人の立場から、いざという時の救済システムの確立や、社会資源をうまくコーディネートする相談支援専門員との関わりが重要であること、また、少しの後押しがあれば、地域での暮らしは可能になるとし、親自身が元気なうちに、地域の中での子どもの暮らしぶりを見て、納得できれば、この先、安心して明るく生活を送れるようになる、伝えられました。渡邊理恵子さんは、障害者基幹相談支援センター長の立場から、家庭環境の事情により、在宅から入所への移行を希望された方との関わりを取り上げられ、周囲のサポートにより、少しずつ自分のしたい生活や、やりたいことが選べるようになり、GHやB型事業所、ヘルパーの利用など、現在の暮らしに結びつくまでの経緯や、今後の課題を報告されました。

どこでどんな暮らし方をするのか、たくさんの経験を重ねながら、本人が決めることができるよう、周囲がサポートしていく仕組みの構築と、相談支援の重要性を、改めて感じた分科会でした。

第3分科会「働く」～働き続けるために～

基調講演・コーディネーター

又村あおい氏 (全国手をつなぐ育成会連合会 政策センター委員)

話題提言・シンポジスト

浅野高子氏 (富山県)、富田雄毅氏 (石川県)、天満 衛氏 (三重県)



第3分科会では、障害のある人が「働き続けるために」、必要な支援や仕組み、地域社会との連携などを考えました。基調講演では又村あおいさんより、乳幼児期、学齢期、成人期ごとに関連する制度について、お話ししていただきました。

卒業進路は、「節目」ではあるが「ゴール」ではない、未来永劫に通う場所と考えるのではなく、将来の暮らしぶりや、本人が希望する暮らしを逆算しながら、そこに近づくために、今どのような支援が必要なのかという切り口で考える事が大事。それはどのライフステージにおいても、同じ視点から考えることを基本にして、進路先や成人後に出会う就労関連の制度について、わかりやすく説明していただきました。

富田雄毅さんは、就業・生活支援センター所長の立場から、障害者雇用率の引き上げにより、就労する人が増える中、職場への適応困難や、周囲からの叱責、対人トラブル等が原因で、離職や休職する軽度知的障害者のケースが目立っている。ジョブコーチと企業が連携しながら、働く環境を整え、



間、1週間に1時間、サポーターに見守られながら仕事体験を重ねる、「ふれジョブたかおか」を紹介されました。働く経験を重ねることによって、本人には自信や社会性が身につく、生きる力を育むことができると。また、企業やサポーターには、こんな人がいる、こんなこともできるという「気づき」があるとき、活動の目的は「就労」ではなく、地域の人たちに理解を深めてもらう、障害のある人が暮らしやすい社会をつくることといった、「地域づくり」であると訴えられました。

— やさしさが 好きです あなたの その運動 —

又村さんが紹介された、「働いている先輩はキラキラしている」という本人の言葉や、「ふれジョブ」受入れ企業の「子どもたちの働く姿を見て、改めて「働ける」という幸せを感じました」という感想が、とても印象に残りました。「働く」ためには、周囲の支えや、理解が不可欠ですが、障害のある人の働く姿が、周りの人に働く喜びや幸を広げ、「働く」という価値を再創造しているということ、また、それが地域づくりや、理解啓発にも繋がっているということに、気づかせてもらいました。

天満衛さんからは、地域全体の人口が減少・高齢化し、働く場が縮小する中、農福連携から始まり、そのノウハウを生かし、「水産業」に着手した志摩市の取り組みについて、ご紹介いただきました。地域の強みである一方、担い手不足でもある牡蠣養殖産業で、障害のある人と、地域の人が一緒に働くことで、産業を守り、働く場を作り、まちづくりにも貢献しているとのことでした。

第6分科会「地域づくり」～育成会活動～

基調講演・コーディネーター

村上 満 氏 (富山国際大学 子ども育成学部 教授)

話題提言・シンポジスト

倉知楯城 氏 (愛知県)、 関哉直人 氏 (弁護士)、 高橋久美子 氏 (静岡県)
浜松キャラバン隊の皆さん



基調講演では村上満さんより、「おわら風の盆」で有名な富山市八尾町の、(社福)フォーレスト八尾会による取り組みを例に、地域共生社会の「まちづくり」について、お話ししていただきました。

ポイントとは、地域資源を生かし、郷土色豊かな事業を展開することが、地域全体の活性化につながる

こと。人と地域とつながりながら、誰にとっても易しい、そして優しい心を育む、福祉の強みを生かした活動を通して、地域の中になくさんの応援団を増やし、富山発「心のバリアフリー」を求める、「みんなが資源、みんなが支援」とい

— 子の生命 守る母の手 みんなの目 —

あり、本人の意思と、親の希望をつなぐためには、本人や親、後見人、福祉関係者等によるネットワークを構築し、一緒に考えていくことが必要であると強調されました。小林寿夫さんは、家のことや障害のある2人のお子さんの世話をされていた祖母の予想外の衰えにより、これまでの生活形態が崩壊しそうになり、それを機にご夫婦で先のことを考えるようになったとのこと。将来、お子さんには、周りの人に支えられながら、安心して地域の中で暮らしてほしい、そのためには、感情のある一人の人間であることを理解してくれる、生涯の伴走者の存在が必要であると、親心を吐露されました。尾崎順子さんは「法人後見」に取り組み立場から、仲間内で親が突然亡くなり、その日のうちから子どもの生活が困難となる事例が続出したこと、障害のある人には長期にわたる支援、チームによる支援が必要であることや、収入や財産が少ないことなどが、NPO法人を設立したいきさつであると説明されました。その取り組みから、情報をつなぐこと、フォーマル、インフォーマルなまちづくりを提唱されました。倉知楯城さんからは、会員減により自然消滅の危機にひんした、小さな町の育成会による活動が紹介されました。地域の特徴を捉え、積極的にながらながら、地域で盛んな防災活動を通しての理解啓発活動や、学齢期の子どもの親が興味を示す活動を展開した結果、現在では、会員数が倍近く増加し、その会員の8割は、お子さんの年齢が30才未満という若い世代で占められているというお話に、感嘆の声も聞かれました。関哉直人さんは、全国に広がる「キャラバン隊活動」について、学校や子どもたちに向けて理解啓発を行う意義をお話しされ、国の法律や施策、県条例では、障害者への理解啓発をすすめる「心のバリアフリー」の教育や普及啓発を目的にしていることから、学校現場への普及活動の道筋が開かれていることを説かれて、この活動を力強く後押しされました。高橋久美子さんが隊長を務める、「浜松キャラバン隊」からは、



コンビニやバス停を舞台にした寸劇が披露され、障害特性の表現と、周りの困惑の見事な調和、障害のことを伝えたい、知ってほしい、「みんなが違って、みんないい」という熱い思いに、会場から大きな拍手が沸き起こりました。

地域の特色や強みを捉え、共に活動すること、私たち自身が積極的に発信することで、理解が広がり、障害のある人もない人も、尊重しあう「地域づくり」への土壌になると実感しました。その土壌を耕す、地域を耕す活動は地道なものです。これからの育成会活動の柱の一つとなると思われました。

— 人権は かけ声よりも 心がけ —

第5分科会「つなぐ」～親が元気なうちに行えること～

基調講演・コーディネーター

細川瑞子 氏 (全国手をつなぐ育成会連合会 権利擁護センター委員)

話題提言・シンポジスト

尾崎順子 氏 (富山県)、 小林寿夫 氏 (福井県)、 春見鉄男 氏 (岐阜県)



次に、「お金」については、親なき後の生活には、いくら必要なのかを考え、財産を残すためには遺言書の作成、管理が必要であれば成年後見制度の利用、また、若いうちからの備えとして、共済や信託制度を紹介されました。また、親は、いつかは社会に子どもを残していく、社会に委ねていくため、親自身の意識改革が必要で

基調講演では細川瑞子さんより、親亡き後も、今の本人の暮らしが守られていくよう、親から次へつなぐために、今からできることをテーマに、お話ししていただきました。親の高齢化や、子の加齢の実態から、親にもしもの事があると、どうなるのかというリスクを予想し、準備しておくこととして、まず「情報」をつなぐことをあげ、親の思い、親しか知らない本人の思いや、成育歴、性格などを記録し、残すことを勧められました。

— 差別ない 心で広げる 豊かな社会 —

あり、本人の意思と、親の希望をつなぐためには、本人や親、後見人、福祉関係者等によるネットワークを構築し、一緒に考えていくことが必要であると強調されました。小林寿夫さんは、家のことや障害のある2人のお子さんの世話をされていた祖母の予想外の衰えにより、これまでの生活形態が崩壊しそうになり、それを機にご夫婦で先のことを考えるようになったとのこと。将来、お子さんには、周りの人に支えられながら、安心して地域の中で暮らしてほしい、そのためには、感情のある一人の人間であることを理解してくれる、生涯の伴走者の存在が必要であると、親心を吐露されました。尾崎順子さんは「法人後見」に取り組み立場から、仲間内で親が突然亡くなり、その日のうちから子どもの生活が困難となる事例が続出したこと、障害のある人には長期にわたる支援、チームによる支援が必要であることや、収入や財産が少ないことなどが、NPO法人を設立したいきさつであると説明されました。その取り組みから、情報をつなぐこと、フォーマル、インフォーマルなまちづくりを提唱されました。倉知楯城さんからは、会員減により自然消滅の危機にひんした、小さな町の育成会による活動が紹介されました。地域の特徴を捉え、積極的にながらながら、地域で盛んな防災活動を通しての理解啓発活動や、学齢期の子どもの親が興味を示す活動を展開した結果、現在では、会員数が倍近く増加し、その会員の8割は、お子さんの年齢が30才未満という若い世代で占められているというお話に、感嘆の声も聞かれました。関哉直人さんは、全国に広がる「キャラバン隊活動」について、学校や子どもたちに向けて理解啓発を行う意義をお話しされ、国の法律や施策、県条例では、障害者への理解啓発をすすめる「心のバリアフリー」の教育や普及啓発を目的にしていることから、学校現場への普及活動の道筋が開かれていることを説かれて、この活動を力強く後押しされました。高橋久美子さんが隊長を務める、「浜松キャラバン隊」からは、

マルな支援の連携、ライフステージにに応じて、必要になるお金や暮らしが変化することや、本人の思いをいかにくみ取れるかという点をあげ、「親なき後のことは、親あるうちに考えること」を、強く訴えられました。春見鉄男さんは社会福祉士、ごきょうだいの立場から、どんな準備をすれば、親自身の安心につながれるのか、具体的な金額や「遺言書」の例をあげて説明されました。また、後見人が必要かどうかの判断基準、後見人には誰が相応しいのかを述べられ、今後は複数人が連携しながら、本人の思いをくんだ後見プランを作って支援していく形が理想であるとし、親には、人や社会とつながる道筋の準備をしておいてほしいと結ばれました。高齢化や親なき後のことは、後回しにしたかったり、考えること自体が辛かったりするかもしれない。そんな時、同じ思いや悩みを持つ者同士と一緒に考えたり、支えあったりすることができると、育成会の強みです。社会や地域、仲間と連携しながら、「つなぐこと」、「親ができること」を、考えてみてはいかがでしょうか。

— 曲り角 とまる習慣 待つしつけ —

平成30年度 富山県予算に対する要望書
 平成29年10月26日に提出しました

あなたです！差別するのも されるのも

1. 権利擁護の推進

- (1) 地域共生社会づくりを進めるため、障害者差別解消法や県条例の普及啓発、「ユニバーサルデザイン2020行動計画」の推進など、県民や企業、各種団体等への知的障害者理解啓発の一層の推進
- (2) 地域における知的障害者理解の浸透を図るため、市町村における「差別解消支援地域協議会」の活用と相談体制整備の促進
- (3) 本人の高齢化や親亡き後を見据えて、市町村における成年後見人の育成と成年後見センターの整備促進など、成年後見制度の普及啓発
- (4) 「障害者虐待防止法」を周知徹底するための研修と、養護者についてはむしろ支援の対象であるなど、法律の趣旨を尊重した支援体制の推進

2. 障害児支援の充実強化

- (1) 子育て支援や家族支援施策の一層の充実強化と、早期療育の充実のために、児童発達支援センターにおける専門医師の確保など所要額の確保
- (2) 家族にとって身近なところで緊急時の支援が得られる、ショートステイの確保や日中一時支援等の充実

3. 特別支援教育の充実

- (1) すべての子どもたちへの「心のバリアフリー」の指導を充実する

6. 就労支援の推進

- (1) 障害者優先調達法による発注拡大に努めるとともに、「富山県工賃向上支援計画」を検証し、障害者が地域で自立した生活が送れるよう、所得保障の拡充
- (2) 知的障害者に配慮した就労促進と雇用の拡大定着を図られるよう、雇用現場での障害特性の理解啓発研修や合理的配慮の周知・徹底

平成29年10月26日に、富山県厚生部、教育委員会（県立学校課）、商工労働部（労働雇用課）に対して、県育成会から7名の理事等により要望活動を行いました。要望後にそれぞれ懇談する時間を設けていただき、日頃の思いや懸念事項を話し合うことができました。

★共生社会づくりについて（厚生部）

県条例の普及・啓発については、出前講座の実施をはじめ、アールブリュットなどの文化芸術活動、ポッチャなどのスポーツ活動等も含めて、幅広く啓発していきたい。子どもたちへの心のバリアフリーや福祉教育の推進については、厚生部としてもお手伝いしていきたい。

地域生活を取り巻く問題は、いろんな意味で永遠の課題とも言えるが、一人一人に向き合えるような相談支援をはじめとして、地道に努力を積み重ねていきたい。

★心のバリアフリーなど、幼少期からの福祉教育の推進（教育委員会）

交流や共同学習など学校現場での実践や、道徳の教科などを通して、障害の有無を問わず、お互いを認め合えるような教育環境づくりや人間形成に努める。

★障害者雇用について（商工労働部）

平成30年4月から障害者雇用率が2.2%に引き上げられ、障害者の職場適応への支援が一層重要になるので、企業を対象にした実務研修や企業訪問などを通じて、本人が適応しやすくなるような就労や定着支援につなげていきたい。

**平成30年度（2018年）
富山県手をつなぐ育成会 主要行事**

平成30年2月現在

開催日（予定）	事業名	場所
平成30年6月3日(日)	第46回富山県手をつなぐ育成会大会 (滑川・中新川エリア大会)	北アルプス文化センター 上市町文化研修センター
9月6日(木)	平成30年度 ふれあい育成スポーツ大会	にいかわ地区…ありそドーム
9月28日(金)		富山地区…富山県総合体育センター
9月21日(金)		射水・高岡・氷見地区…高岡市民体育館
9月27日(木)		となみ地区…富山県西部体育センター
10月27日(土) ～28日(日)	第51回東海北陸手をつなぐ育成会大会 (三重大会)	三重県伊勢市 (伊勢志摩ロイヤルホテル)
平成31年2月23日(土) ～24日(日)	第5回全国手をつなぐ育成会連合会 全国大会	京都府京都市
平成30年10月13日(土) ～15日(月)	第18回全国障害者スポーツ大会	福井県
未定	全国手をつなぐ育成会連合会 事業所協議会全国研修大会	未定

4. 地域生活支援の推進

- (1) きめ細かな相談支援を通して、障害のある人の暮らしを支えるサービス等利用計画の作成
- (2) 重度対応が可能なショートステイの確保と、支援員に対する障害特性に関する理解啓発研修の充実や適切な支援
- (3) 障害者の高齢化や認知症化、重度化に対応できるように、障害福祉制度と介護保険・医療との連携や、共生型サービスの推進
- (4) グループホーム、共生型グループホーム、生活介護事業所等の設置に伴う地域住民に対する理解啓発策の構築、及び整備費所要額の確保
- (5) グループホームにおける医療的ケアや強度行動障害、高齢化に伴う特別なニーズ等に対応できる支援員の配置と報酬単価の適正化
- (6) 市町村における「地域生活支援拠点等事業」の普及・啓発と基盤整備の推進

5. 防災対策・安心安全対策の推進

- (1) 知的障害者の障害特性への理解啓発、コミュニケーション支援、誘導支援等を盛り込んだ防災訓練の実施
- (2) 災害時における知的障害者専用の避難所や一般の避難所の中での専用スペースの確保
- (3) 障害者が避難できる施設の場所を、あらかじめひとり一人の障害者に紹介する仕組みの構築（サービス等利用計画での対応や障害者に配慮した情報提供等）など、災害時支援の具体化に向けての啓発

守る 人権 明るい未来

キラッと、10代がんばっています！ 野村圭佑さん

(富山大学附属特別支援学校・高等部2年)

富山大学附属特別支援学校・高等部2年生の、野村圭佑さんが、昨年11月に栃木県宇都宮市で開催された、全国アビリンピック大会(全国障害者技能競技大会)に出場されました。

富山県大会から全国大会までの、圭佑さんの奮闘の様子を、お母さんの野村幸恵さんに綴っていただきました。

昨年11月に栃木県で開催された「全国アビリンピック大会2017」に、高2の息子がパソコン(データ入力部門)に出場させていただきました。

挑戦のきっかけは、学校集会で先輩方のアビリンピック出場の記事を聞いたことでした。



相談し、大会に向けた練習を始められました。はじめの2ヶ月間は、3種目すべてに慣れること、その後はスピードアップを目指し、キーボードの入力については、本人の特性を活かした入力方法を指導していただきました。



階席から見守りましたが、上位入賞者は明らかに入力スピードや動作の素早さが違っており、全国の壁の厚さを痛感しました。

今回の挑戦では目標を達成するまでの苦しさとともに、全国大会に出場できたという達成感・満足感を経験できたのではないかと思います。

本日のところは、本人は旅行が大好きなので、「栃木県に行きたい」という強い思いが、日々の頑張りを支えたのかもしれない。実際、滞在中は同行の先生方と一緒に美味しい餃子をたくさん食べてきたようです。

最後に、親切丁寧にパソコンを

「地域の育成会から」魚津市手をつなぐ育成会 自閉症・発達障害の 子育て支援研修会

講師 奥平綾子さん (株)おめめどう

全国手をつなぐ育成会連合会では、H28年度より、地域の育成会活動の活性化と継続的発展が図られるよう、地域育成会が主体的に行う各種研修・イベントへの事業費助成を実施しています。

今年度、魚津市育成会による、学齢期の保護者を対象とした研修会が採択されました。

「障害のある人の居心地のいい暮らしのために」支援力UP研修会

最近、学齢期の保護者の方から、親同士の繋がりが希薄になって、困っていることや悩み等を、親同士で話したり、相談したりする機会がないという声を聴きます。

そこで、親としての仲間意識や、育成会活動への理解を深めていただくことを目的に、下新川エリア合同で、子育て支援研修会を企画しました。



講師の奥平綾子さんは、自閉症のお子さんを持つお母さん。コミュニケーション支援グッズの開発・販売・ネット相談やメルマガ配信・全国各地での講演・セミナーを行い、自閉症の人に限らず、多くの障害のある人の「暮らし」を応援し、全国に多数のファンがいらつしゃいます。

今回は約100名と、大変多くの方にご参加いただきました。

午前は、「暮らしを支える支援のコツ」、午後からは「大人になるまでに身につけておきたいこと」をテーマにお話ししていただきました。一貫して協調されたのは、支援の基本は「杖の役割」、動くところをしっかりと押さえて、苦手なところをカバーするということでした。

自閉症・発達障害の人への支援として、①見通しのある暮らしをする、②自分で選ぶ、③見てわかるコミュニケーション、④人と違っていい、みんなと一緒にやなくていい、の4つを挙げられ、得意な面を伸ばし、自信をもたせること。ご自身の子育て経験に基づいたお話は、とてもわかりやすく、本人の気持ちを尊重し、本人が過ごしやすい環境を整える大切さを、皆さん納得されました。

学齢期の保護者の中には、障害をもつ子供と向き合うという現実と孤独感の中、日々を過ごしている方も多いと思います。

私たち育成会が、同じ親の立場で苦悩する親の気持ちを共有し、話を聞き合える、アドバイスを受けられる場を提供することで、信頼関係が生まれ、育成会活動への参加にもつながると感じました。

全国手をつなぐ育成会連合会・久保会長と共に考えましょう フォーラム「津久井やまゆり園事件を風化させない!!」

事件の背景、被害者の匿名報道、障害者への差別や偏見、また、今後、地域社会に向けて、どのように「障害」への理解を伝え、広げていけばいいのかを考えます。

- 平成30年3月25日(日) 13時～17時
- 福野文化創造センター ヘリオス
- 主催 手をつなぐ育成会とみなみ地域連合会
- 共催 富山県手をつなぐ育成会

※ 詳しいご案内は、後日お送りいたします(ホームページでもお知らせいたします。)

来年の大会にも「出たい!」と、意気込んでいるという圭佑さん、技術に磨きをかけて、今後も頑張ってください!

また、放課後デイサービスの環境で、「パソコン教室」を行っていることも、とても面白い取り組みだと思いました。

圭佑さんは、小学3、4年生の頃からパソコンに親しみ、いつの間にか、家では教えていないローマ字入力ができるようになって、ご家族が大変驚かれたということも、お伺いしました。

また、放課後デイサービスの環境で、「パソコン教室」を行っていることも、とても面白い取り組みだと思いました。その事業所の方によると、周りの利用者がにぎやかにしている中、それを横目でチラリと見ながら、一生懸命に集中して練習に励んでいたそうで、本当によく頑張っていましたよ、とのことでした。

本当にありがとうございました。

富山県保育士会様より、今年もたくさんの
タオルをいただきました。
作業所での自主制作製品に利用するなどし
て、大切に使用させていただきます。どうもあり
がとうございました。

お礼



富山県育成会だより、今年もたくさんの
タオルをいただきました。
作業所での自主制作製品に利用するなどし
て、大切に使用させていただきます。どうもあり
がとうございました。

富山県育成会の会員になりませんか!

知的障害のある本人たちの権利擁護を推進
し、誰もが安心して暮らせる共生社会づくりを
一緒に進めましょう。

正会員

障害のある人の保護者や家族

年会費

5千円(1世帯)

市町村支部や施設保護者会でさまざまな活動
を行っていますので、市町村支部等にもご入会
をお願いします。

賛助会員

育成会の活動を理解、応援して
下さる方を募っております。

年会費

特別賛助会員 1口 3千円
賛助会員 1口 1千円

ご入会いただいた方につきましては、30年5
月発行の会報にご芳名を記載させていただきます
。(匿名でも結構です。)

第4回全国手をつなぐ育成会連合会 全国大会(札幌大会)

平成29年9月23日(土)・24日(日)

『今こそ創ろう!自信と誇りを
もって生きる社会を共に』をテー
マに、今年は、北海道・札幌市で
全国大会が開催されました。
全国各地から、たくさんの参加
者があり、富山県からは、33名(内、
本人9名)が参加しました。

表彰おめでとうございます

【全国大会 表彰状】



服部 隆則 氏
富山市手をつなぐ育成会 会長

初日は分科会が行われ、今回は、「
発達・教育」、「働く」、「通う」、「暮
らす」、「高齢」、「権利擁護」の6
つの分科会が設けられました。
約250名が参加した「暮らす」
では、福岡寿さん(日本相談支援
専門員協会顧問)が、長野県で、
ご自身が取り組んでこられた、地
域での暮らしを支える取り組みを
交えながら、「本人が主体」の支
援の在り方についてお話しされま
した。
また、「合理的配慮」理解啓発
キャラバン隊全国サミット」と銘
打たれた特別分科会があり、すで
に啓発活動を行っている人や、始
めてみたい人たちが集まり、これ
から、どのように活動していけば
よいか、どのように広めていくのか
等、熱い議論が交わされました。
富山県内でも、「やってみよ

ひとりひとりが考える 実践活動

やさしさが好きです あなたのその運動

う!」という地域や、具体的な動
きが出てきたので、今後は、
全国各地のキャラバン隊との交流
を深めながら、この活動に取り組
んでいきたいと思っています。



本人大会は、「ひとりひとりの
かけがえない人生を大切に、仲
間たちとつながろう!」をテーマ
に行われました。

前半の分科会には、「恋愛結婚
について」、「高齢障害者につい
て」、「差別・虐待のない社会をつ
くろう」、「仕事について」、「私た
ちの人生とこれについて考えよ
う」と、かなり具体的なテーマが
並びました。人気は「仕事」につ
いてでしたが、恋愛結婚や自身の
高齢化についての関心も高く、本

次回は京都大会です!

今回の全国大会は、平成31年
2月23日(土)、24日(日)に、京都市
で開催される予定です。
育成会大会も、本人大会もそれ
ぞれ6つの分科会が予定されてお
り、盛大なものとなりそうです。
ぜひ、たくさんの皆様のご参
加をお待ちしております!



人たちから、これから、富山県の
本人活動での勉強会に役立てたい
と、感想もありました。
また、人気の「思い出観光」には、
富山県から3名が参加し、札幌市
内の見どころや美味しさを、思っ
て存分味わってました。

元気の出る情報・交流紙

4月号から購読
しませんか?



全国手をつなぐ育成会連合会が編集・発行する機関誌「手をつなぐ」は、
知的障害のある人の生活に関する問題や福祉施策の最新情報、全国各地
の先進的な取り組みなど、情報が満載です。

年間購読料3,900円。毎月、お手元に届きます。

※年度途中で解約はできません。

育成会の動き

期日	内容	期日	内容
【報告】		10/26(木)	H30年度県予算要望(県庁)
8/1(火)	施設部会、地域事業所部会(サンシップとやま)	10/28~10/30	第17回全国障害者スポーツ大会(愛媛県)
8/3・4(木・金)	障害者相談員(3障害)活動強化研修会 (金太郎温泉)	11/10(金)	富山総合支援学校創立50周年記念式典
8/9(水)	特別支援学校校長懇談会(呉羽ハイツ)	11/15(水)	障害者虐待防止権利擁護研修会(ボルファート)
9/3(日)	本人活動部会(サンシップとやま)	11/22(水)	サポート協会ブロック会議(三重県)
9/6(水)	ふれあい育成会スポーツ大会 にかわ地区	11/30(木)	施設部会「全体研修会及び施設長懇談会」 (セーナー苑)
9/7(木)	理事会(サンシップとやま)	12/1(金)	障害者週間キャンペーン(富山駅)
9/10(日)	富山障害フォーラム会議(聴覚センター)	12/3(日)	本人活動部会(サンシップとやま)
9/15(金)	パイロットウォーク(富山市ファミリーパーク)	12/10(日)	障害者週間キャンペーン(イオンモール高岡)
9/20(水)	ふれあい育成会スポーツ大会 高岡地区	12/14(木)	障害基礎年金研修会(サンシップとやま)
9/21(木)	県議会 自民党政調会 県予算要望(県議会)	12/27(水)	富山障害フォーラム会議(聴覚センター)
9/21(木)	心の輪を広げる体験作文・ポスター審査会 (県民会館)	1/10(水)	県工賃向上支援計画検討委員会(県民会館)
9/23・24(土・日)	第4回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会 (札幌市)	1/25(木)	県小学校・中学校長会(教育記念館)
9/26(火)	県特別支援学校PTA連合会 研修会 (サンフォルテ)	1/26(金)	県社協 社会福祉施設・団体連絡会議(県民会館)
9/28(木)	ふれあい育成会スポーツ大会 となみ地区	1/26(金)	全国育成会連合会第5回権利擁護セミナー(広島市)
9/29(金)	ふれあい育成会スポーツ大会 富山地区	【予定】	
10/1(日)	本人活動部会(サンシップとやま)	2/17-18(土・日)	全国育成会連合会 事業所協議会全国研修大会 (東京)
10/14(土)	ふれあい共生フォーラム(サンシップとやま)	2/21(水)	東海北陸手をつなぐ育成会協議会 意見交換会 (名古屋)
10/16(月)	全国障害者スポーツ大会 結団式(県庁)	2/27(火)	施設部会・地域事業所部会(サンシップとやま)
10/21-22(土・日)	第50回手をつなぐ育成会東海北陸大会(富山市)		